

2020 年度に実施したプロジェクト評価結果のまとめ

2020 年度に実施した、プロジェクト中間評価全 17 件及びプロジェクト事後評価全 11 件について、評点はそれぞれ以下の通り。

1. 中間評価結果のまとめ

	事業名	担当部	意義	運営	成果	実用化
1	次世代人工知能・ロボットの中核となるインテグレート技術開発	ロボ	2.6	1.9	2.4	2.3
2	人工知能技術適用によるスマート社会の実現	ロボ	2.6	1.9	2.1	1.9
3	高効率・高速処理を可能とする AI チップ・次世代コンピューティングの技術開発 (旧: IoT 推進のための横断技術開発プロジェクト)	IoT	3.0	2.1	2.6	1.6
4	AI チップ開発加速のためのイノベーション推進事業	IoT イノベ	3.0	2.3	2.6	2.4
5	革新的新構造材料等研究開発	材料ナノ	3.0	2.1	2.4	2.1
6	未利用熱エネルギーの革新的活用技術研究開発	省エネ	2.8	2.8	2.3	2.0
7	環境調和型プロセス技術の開発 / [2] フェロコークス技術の開発	省エネ	2.6	2.4	2.7	2.6
8	バイオジェット燃料生産技術開発事業	新エネ	2.4	2.3	2.0	1.1
9	先進・革新蓄電池材料評価技術開発 (第 2 期)	電水	3.0	3.0	2.6	2.6
10	水素利用等先導研究開発事業	電水	3.0	2.4	2.4	2.0
11	超高压水素インフラ本格普及技術研究開発事業	電水	3.0	2.6	2.3	2.1
12	水素社会構築技術開発事業 / 研究開発項目 II (大規模水素エネルギー利用技術開発)	電水	3.0	2.5	2.6	2.3
13	省エネ化・低温室効果を達成できる次世代冷媒・	環境	3.0	2.7	2.7	2.6

	冷凍空調技術及び評価手法の開発					
14	カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／石炭ガス化燃料電池複合発電実証事業	環境	3.0	2.3	2.7	2.0
15	カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／〔4〕次世代火力発電基盤技術開発 6) 石炭火力の負荷変動対応技術開発	環境	2.6	1.4	2.0	1.2
16	環境調和型プロセス技術の開発／〔1〕水素還元等プロセス技術の開発（フェーズⅡ-STEP1）	環境	3.0	2.7	2.9	2.0
17	CCUS 研究開発・実証関連事業〔1〕～〔4〕	環境	2.9	2.1	2.3	1.6

注：下線の1件については、今回の第65回研究評価委員会での審議を経て、確定する。

2. 事後評価結果のまとめ

	事業名	担当部	意義	運営	成果	実用化
1	航空機用先進システム実用化プロジェクト〔1〕～〔7〕	ロボ	3.0	2.6	2.9	2.6
2	次世代人工知能・ロボット中核技術開発	ロボ	2.9	2.7	2.7	2.0
3	低炭素社会を実現する次世代パワーエレクトロニクスプロジェクト／〔1〕〔10〕、〔3〕〔2〕、〔4〕	IoT	3.0	2.7	2.9	2.4
4	省エネ製品開発の加速化に向けた複合計測分析システム研究開発事業	材料ナノ	3.0	3.0	2.6	2.6
5	次世代構造部材創製・加工技術開発	材料ナノ	3.0	2.7	2.6	2.1
6	非可食性植物由来化学品製造プロセス技術開発／木質系バイオマスから化学品までの一貫製造プロセスの開発	材料ナノ	3.0	2.1	2.4	2.1
7	バイオマスエネルギー技術研究開発／〔5〕セルロース系エタノール生産システム総合開発実証事業	新エネ	2.6	2.2	2.4	2.2
8	太陽光発電システム長期安定電源化基盤技術開発	新エネ	3.0	2.4	3.0	2.4
9	高性能・高信頼性太陽光発電の発電コスト低減技術開発	新エネ	3.0	2.4	3.0	2.6
10	次世代洋上直流送電システム開発事業	スマコミ	3.0	2.4	2.6	2.0
11	※カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／〔5〕CO ₂ 回収型次世代IGCC技術開発	環境	2.5	2.8	2.8	2.0

注：下線の3件については、今回の第65回研究評価委員会での審議を経て、確定する。

※：前倒し事後評価

第4期中長期計画における評価指標について

(参考)

○第4期 事後評価結果

70%以上 (マネジメント、成果 \geq 2点 (3点満点))

50%以上 (実用化 \geq 2点 (3点満点))

第4期中長期計画 抜粋

I. 研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項

第4期中長期目標期間においては、研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上のため、以下のとおり、1. から4. の業務項目毎に取組を行うものとする。

また、機構の業務活動単位を①エネルギーシステム分野、②省エネルギー・環境分野、③産業技術分野、④新産業創出・シーズ発掘等分野とし、これらの分類ごとに組織上の責任者を配置して業務を実施する。(中略)

1. 技術開発マネジメント等による研究成果の社会実装の推進

(1) 世界最先端の研究開発プロジェクトの実施と成果の最大化

○数値目標 1. - 1

【目標】「基幹目標」

(中略) 事業終了後、5年が経過していないナショナルプロジェクト(非連続ナショナルプロジェクトを除く。)については、事業終了後に実施する外部評価委員会による事後評価における「成果の実用化・事業化に向けた取組及び見通し」の評価項目の4段階評点が最上位又は上位の区分となる比率を第4期中長期目標期間全体で該当する評価単位のそれぞれにおいて、いずれも50%以上(平成23年度以前に終了したナショナルプロジェクト243件の実績は41%)とすることを目標として、成果の実用化に向けたマネジメントに、より一層取り組むものとし、当該比率を基に実用化達成率の将来予測を行うものとする。

(2) 技術開発マネジメントの機能強化

○数値目標 1. - 2

【目標】

(中略) 第4期は、マネジメント結果を直接的に測定できる「研究開発マネジメント」及び「研究開発成果」の評価項目に特化することとし、同評価項目の4段階評点が最上位又は上位の区分の評価を得る比率について、第4期中長期目標期間全体で該当する評価単位のそれぞれにおいて、いずれも70%以上(平成28年度までに事後評価を完了したナショナルプロジェクト358件の実績値は68%)とすることを目標とし、その達成状況を評価する。